

「ぼくは畑のレスキューたい」

家族のみんなが大好きなとうもろこしを、毎年家の畑で育てていました。ところが、とうもろこしが大きくなると、いつもハクビシンに食べられてしまします。とうもろこしを守るために、ハクビシンとの知恵比べが始まりました。

尋ねてまいります。どんなものを好んで食べるかについては、自分がハクビシンになりきって、畑のいろいろな野菜にかぶりついて考えました。

ビニール作戦　夜の見張り作戦
石灰を使った足あき作戦　ロボット作戦……。失敗や成功を重ねるうちに

まずは、ハクビシンの被害や対策について知るために近所の人たち

ハクビシンの姿がどんどん頭の中でふくらんでいく様子が、作品

の中に生き生きと映し出されています。

果敢に行動し体験を積んだことと、長期にわたる根気のある取り組みが評価されました。自分だけの考えに偏ることなく、地域の十一人の人にインタビューするなど、まじめ方もバランスがとれています。

また、ハクピシンと同じ目線に立つて書いた文章には自分以外の生きものに對する思いやりが随所に表れています。特に自分がハクピシンになって畑の野菜をかじってみるという発想は、ハクピシンの行動を探るうえで、非常に面白い試みです。大変独創的で楽しい作品でした。

「ジロとわたしはいたずらなかま」

大好きなジロ(ねこ)との生活が、愛情あふれた楽しい作品に仕上がっています。

厚紙で作ったジロが表紙をかざっています

つなごとうとなんです」と書かれている「まとめ」からも、ジロに対する思いが伝わってきます。

従来の使われていないテーマを身近なものの中から発見し、生活料の中で大切なスタンズである「自分に引きつけてとらえる」ということのできている作品です。また、研究内容のまとめ方、表現力は、全応募作品の中で最も高く評価されました。

作品の中で、ジロが様々なおしゃべりをする表現や、「せかいにひとりしかないいたいせ

のまとめ方、表現力は、全応募の中で最も高く評価されました。

ジロの生活や、ジロにかかわる人たちの話をまとめました

「アジアのりょうりとしよくざい」

テレビで興味を持ったアジアの食材をテーマとした、非常に着眼点のおもしろい作品です。

係がうまくまとめられています。

「食」という身近なテーマから各国の文化、風土、また日本とアジア

「しらべたのは、中国、かんこく、とうなんアジアと、ぼくがとてもきょうみがあつたブータンです」

つきます。こう
した周囲に目を
向けた姿勢も、
作品に厚みを持
たせています。

を、本を使ってさらに詳しく調べました。その料理が生まれたわけ、その食材を使う理由、主食と気候の関係など、生活と食べものの密接な関係を、アの関係というように、次々と広がつていく研究が、読む人の興味をひきつけます。

「おじぎ草の」

おじぎのしかたについてかんさつ」

奈良県・帝塚山小学校一年 大山英里子

「なぜ、おじぎ草は植物なのにおす。

オジギソウの性質やおじぎをするしくみを調べるために、種からオジギソウを育てて観察しました。

実験では、接触させるものに工夫が見られます。音や光には反応するの、熱、振動、息をふきかける、また、声をかけておじぎを試みるなどいろいろな働きかけをしていました。

「まとめ」の中で「おじぎ草が人間とおなじようにみえた」とあるのはオジギソウとこうしたふれあいを続けたからこそ生まれる、実感のこもった言葉でしょう。

仮説「観察という理科的な過程をしっかりとふまえていること、細部に渡る丁寧な観察記録が評価されました。」

植物の観察記録の中で最も高い評価を受けました

おもむき草のおむぎの
しかたについてかんさつ

市塚山小学校
一年月組
大山 英里子

[illegible]

工藤 千明

杉浦 和歌乃

加藤 佐英里

城間 盛登

森 美沙紀

村田 眞美

總評

今年は、すっかりとした研究を行っているうえに、表現力の優れた完成度の高い作品が多く集まりました。なかでも一年生の作品は、個性的で発想豊かな作品が目立ち、全体的にレベルが上がったという印象を受けました。

今回の入賞作品は、身近な生活の中から発見したテーマに対して、独特の研究を行い、積極的に体験し、根拠よく調べ続けたところが評価されています。ふだんは見過ししがちなできごとを、注意深く見ることによって新たな発見や体験をつかんだと思われる。

全体的に残念だったことは、「やりましたで終わってしまった作り

ではなく、「まとめ」「かんそう」でなく、「ふりかえって」などで、自分なりの考えや、気づいたことを、もう一度振り返ってみましょう。次に、自分の研究したことが日常生活においてどのようなかわりがあるのかを考えてみましょう。このような「ふりかえり」がある学習は、必ず財産となります。さらなる理解や疑問も生まれてくるでしょう。

生活科では、身近な生活の中から出てくる疑問やきこかけであれば、どんなに小さなことでもテーマとなり得ます。今後皆さんの個性的かつ発想豊かなテーマに期待します。

自由研究のワンポイントアドバイス

●**テーマ選び**

「あれはなに?」「どうして?」「どうなるかな?」など、日常生活の中にはいろいろな不思議や疑問がたくさんあります。日ごろ興味を持ったものをメモにとっておくとよいですね。

また、自然や町、周りの人などに目を向けることも大切です。

●**まとめ方**

一通り研究を終えたら、結果や内容をもう一度振り返ってみるようにしましょう。

まずは、自分の調べたことが日常生活においてどのようなつながりがあるのか、考えをめぐらせてみてください。新しい感動が見つかるかもしれません。

そして、調べたものと比較できるものを探してみよう。比較することで、よりはっきりと対象が見えてきます。

最後に、気がついたこと感動したことは、素直にそのまま書くともよいですね。発見や結論に至るまでに考えたことも、記録として残すようにしましょう。